



消防大学校だより

救助科 (第72期)

消防大学校では、専科教育学科において、救助隊長等に対し、救助業務に関する高度の知識及び技術を専門的に修得させ、救助業務の教育指導者等としての資質を向上させることを目的に「救助科」を設置しています。

本年度の救助科第72期は、救助業務の管理者・指導者として訓練企画能力と現場指揮能力の向上を主眼に置いて実施し、全国より集まった60名が8月24日から10月15日までの53日間にわたる教育訓練を終えて、全員が無事卒業しました。

教室での座学（講義）では、安全管理をはじめ、現場指揮、リーダーシップ論、救助行政の動向、NBC災害、惨事ストレス対策、身体管理、教育技法及び接遇等、救助隊長として必要不可欠となる知識の修得に努めました。

実技では、学生が講師となり講義を行う教育指導演習Ⅰ（講義演習）、各班単位で教育訓練班及び被訓練班に分かれて実技指導を行う教育指導演習Ⅱ（実技指導演習）、放水要領を含む火災救助訓練、火災及び交通事故等の救助現場を想定した救助現場指揮訓練、NBC災害対策訓練、多数傷病者対応訓練、編みロープを使用した

訓練等を実施し、基本的な技術の再確認から指導技法、救助現場指揮活動まで幅広い内容の実技訓練を行いました。

また、救助科企画総合訓練では、近隣の消防6本部を教育支援として招聘し、課程を総括する訓練と位置づけて、学生と教官が一丸となって訓練の企画から訓練実施後の検証に取り組み、本課程の教育効果を確認しました。

研修を終えた学生からは、「高度な知識・技術のほか、安全管理や現場指揮の重要性と必要性を改めて見直すことが出来た。」、「約2ヶ月で自己啓発はもちろん自己改革も出来た。」、「人生の中でかけがえのない時間を過ごすことが出来た。」など、教育訓練全般及び学生相互の交流を含めて、総合的に有益であったと評価する意見が多く寄せられました。

今後は、消防大学校で修得した幅広い高度な知識に加え、全国から集ったかけがえのない仲間から得た情報を活かし、救助業務における指導者及び幹部として全国各地域で安心と安全の確保・維持のため活躍することが期待されます。



実火災体験型訓練の様子



震災救助訓練の様子

救急科 (第77期)

消防大学校では、専科教育学科において、救急隊長等に対し、高度の知識及び技術を総合的に修得させ、救急業務の指導者としての資質を向上させる（指導救命士養成教育を含む。）ことを目的に、「救急科」を設置しています。

本年度の救急科第77期は、救急業務の指導者及び指導救命士として訓練企画能力と現場指揮能力の向上等を主眼に置いて実施し、全国より集まった48名が9月9日から10月14日までの36日間にわたる教育訓練を終えて、全員が無事卒業しました。

教室での座学（講義）では、消防庁救急企画室長をはじめとする多彩な講師陣により、救急行政の現状と課題、法律的な問題、最新の救急医療の動向、大規模災害時における医療との連携、危機管理・安全管理など、指導者・救急隊長として必要不可欠となる知識の修得に努めました。

実技では、訓練企画運営の授業で、最新の高度シミュレーター人形を用いて救急訓練を行うことにより、指導技術の向上に大いに役立つものとなりました。

多数傷病者対応訓練では、シミュレーション訓練、実働訓練を実施し、組織的な活動について学び考えること

で、各所属消防本部のレベルアップにつながるものとなりました。

また、指導能力の向上を図るために、系統だった理論に基づいての部下指導及び研究発表などが実践できるよう、リーダーシップ論、教育技法、コミュニケーション技法や接遇に関する講義も実施しました。

さらに、課題研究として、学生が救急業務における様々な課題について自らテーマを設定し、現状の問題点、解決策等について検討を行い、研究成果として学生全員の前で発表しました。

研修を終えた学生からは、「非常に多岐にわたる分野の訓練・講義で、今後所属に戻ってから大いに役立つ内容だった。」「現場活動で役立つ内容から、指導者・管理者として役立つ内容まで大変幅広くカリキュラムが組んであり、大変有益であった。」など、教育訓練全般及び学生相互の交流を含めて、総合的に有益であったと評価する意見が多く寄せられました。

今後は、消防大学校で修得した高度な知識・技術に加え、得られた全国の情報を活かし、救急業務の指導者として、若手の育成、医療との連携、業務高度化への対応等、様々な場面での活躍が期待されます。



救急企画・運営訓練の様子



多数傷病者対応訓練の様子

問い合わせ先

消防大学校教務部
TEL: 0422-46-1712